

東谷山 (2019 年 2/2) 山スキー報告

【山城】新潟・東谷山

【日程と天気】2019 年 2 月 2 日 曇り時々晴れ

【メンバー】CL 菊池・斎藤（健）・会員外 2 名

【行程】

千葉ー湯沢 ICー神立除雪ステーション集合ー二居ー二居峠ー雪底細尾根ー東谷山山頂ー北斜面標高差 150m 滑走ー東谷山山頂ー北西斜面ー貝掛温泉入り口除雪スペースー帰葉



・ 前日までの 24 時間で湯沢の降雪量は 40cm 強、冬型は緩むが天気予想では午前中は雪、雪崩予想は「留意レベル」の中、二居峠仁向かってスタートした。神楽スキー場の積雪もかなり増加し 440cm、BC には十分な積雪である。8:30 過ぎのスタート、すでに先行 P はかなりあるようだ。小生は数日前古希を迎え、今回のメンバーは 75 才を筆頭に 70 才以上の 3 人は東谷山に頻回に訪れている。46 才の初体験の S さんを素晴らしいブナ林ツリーランを経験させるべく 4 人で訪れた。登りの



一般的ルートである二居峠から雪庇の尾根を進むルートを今回選択した。しっかりした先行トレースを辿りいよいよ細尾根の雪庇帯に突入です。風のため、シュカブラや積雪が少ない硬い部分、左の林の藪がうるさいエリア、急斜面など苦勞する場面が出てくる。



持参したクランポンを早々と装着、ストレスを少なくし進む。雪庇とシュカブラの芸術を楽しんだりしながら緊張して核心部を通過する。先行 P、特に女性はかなり苦勞して登高している。

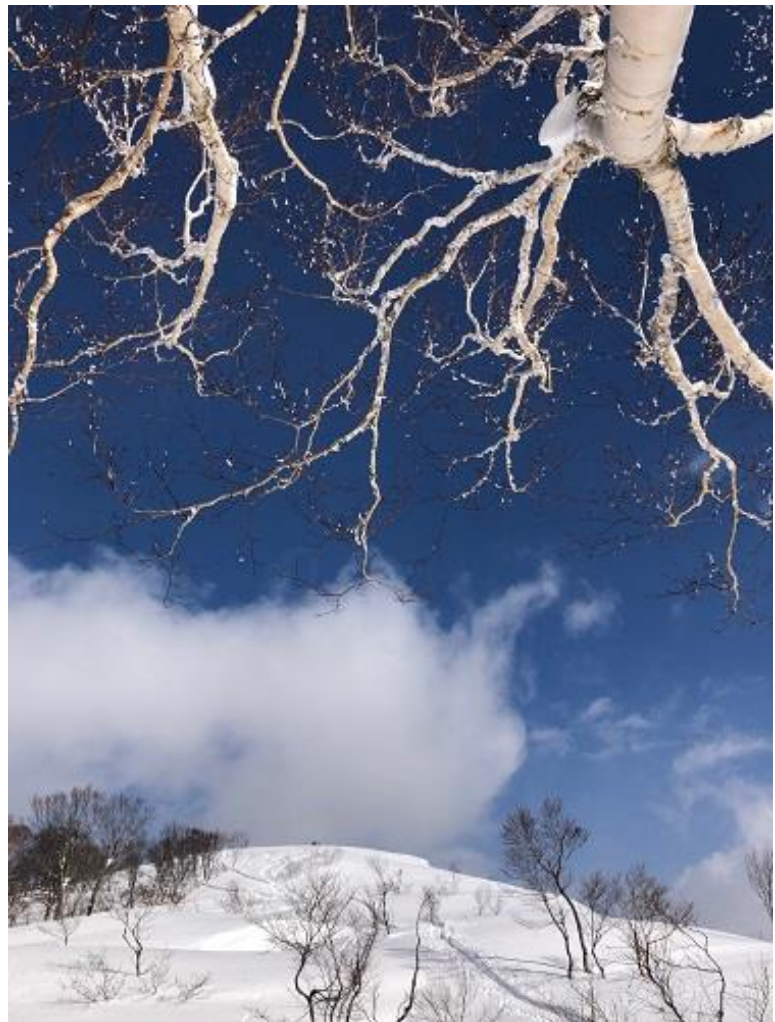


雪庇も終盤になってきて記念撮影した。この後は左の林間急斜面を登りきるとようやく斜度が緩んで山頂に近づいてくる。ブナやダケカンバの素晴らしい緩斜面を山頂に向かう。3年連続訪れているが、いつ来ても素晴らしいブナ林に癒されます。今回も苦勞して頑張ってよかったと感じる一時です。若者 P は、グイグイ先行して山



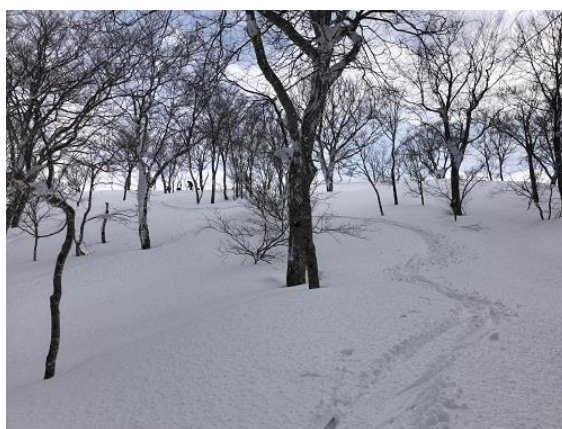


頂に到着している。早くパウダーランを楽しみたいという気持ちを抑えながら、撮影を楽しんだ。スタートして4時間で山頂に到着、多くの先行者が休憩していた。今回の二居峠経由の雪庇ルートは一般的であるが、高齢者や女性にはタフな登りである。わが会では3年連続訪れているが、いつもは地王堂川沿いの道路をしばらく進み標高1040m付近で日白山へのルートとの分岐点を北に向かい、台地上のエリアから作業道(?)ルートをジグザグに高度を上げて行き、最後は山頂の南の尾根に乗り上げるルートを選択している。ストレスは少なくやや時間を要するが、このルートがやはり良いと感じた。



- ・時間的余裕があったため 雪質の良い北斜面の標高差 150m ほどのノートラ雄叫びパウダーランを楽しんだ。山頂からの北斜面はいつも素晴らしい雪質を提供してくれる。ノー

トラを楽しめるため、余裕があるときには、登り返しを覚悟して飛びこむ。メンバー全員、満面の笑みで登り返しは若い SA さんに引っ張られて頑張った。



・いよいよ貝掛温泉入り口までの標高差 850m の北西ルート大滑走です。スタート前に平標山方面をバックに記念撮影です。先行者のシュプールがかなりありますが、広大な、すり鉢状のブナ林中急斜面、雪質も



good、思い思いのシュプールを描けます。かなりスピードが出るため、慎重にスピードコントロールしながらの滑走です。東谷山初体験の SK さん、華麗な AT ターンを披露。上部は 40 cm 程の新雪、板はあまり沈まず、スピードコントロールがポイント。下部に行くほど重くなり新雪は 60 cm あまり、やや重パウダーを堪能しています。沢床に近づくと疲労から痙攣したり、悪雪に

苦勞しながら無事フィナーレを迎えた。いつ来ても素晴らしい、ブナ林ツリーランルートであるが、年々体力の衰えを感じ、再訪する気力が来期も湧き上がるか??

東谷山初体験の SA さん・I さんから送られてきた写真・GPS トラックです。



